

〔学術論文〕

## 保育者の「気になる子」のとらえ方に関する研究

A study of the nursery teachers' understanding

for difficult children kindergarten and Day care

松葉 百香・山本 聡子

Yuka Matsuba, Satoko Yamamoto

**要旨：**本研究では、「気になる子」のエピソード記述をもとに、保育者が「気になる子」に対し何が気になり、どんな意識が働いているのかを、保育者の語りから明らかにすることを目的とした。方法として、エピソード記述をもとにフォーカス・グループ・インタビューを行い、SCATで分析を行った。

今回の分析では、他の人には気にならないことが気になってしまうような関わりの濃さによる感じ方の差が、担任保育者と他者（客観的に見ることが出来る者）との間に見られた。また、保育者は「気になる子」の気になることに対して、保育者の予測乖離される状況から共感的保育意識が働かず、それが子どもの気になる要因となる。こどもに寄り添う保育をする上でも、保育者が気持ちを整え、納得のプロセスへ向かう過程が大切であることが明らかになった。

**キーワード：**気になる子 保育者 SCAT

### 1. 問題と目的

#### (1) 「気になる子」に着目する意義

保育の中で、「気になる子」という言葉を聞くようになってきたが、保育者は発達障害の子どもという理由では、必ずしも「気になる」わけではない。久保山ら（2009）は、保育者が「気になる子ども」という言葉を使うのは、子どもが乳幼児であるため、障害があるかもしれないが診断がついていない場合や、子どもの示す気になる行動が、障害によるものか環境の為なのかわかりにくい場合が多いからであり、当然、「気になる」という言葉で表現される内容は、保育者によって異なると述べている。また、郷間ら（2008）は、幼稚園教諭や、保育士は「気になる子」の問題を感じているが、保護者の理解が十分でなく、専門機関との連携も不十分で、指導や対応に困難を抱えているという現場の苦慮している実態が明らかになったと述べている。多くの保育者が「気になる子」についての問題を抱えているにもかかわらず、対応の難しさがあるのは、なぜだろうか。子ども自身の要因以外にも、保育者の経験や保育観、立場や関わり方や環境などの

様々な要因が挙げられるが、保育者の感じる「気になる子」とは、いったいどのような子を言うのだろうか。また、なぜ保育者はそれが「気になる」のだろうか。本荘（2012）は、「気になる」子どもをめぐるの先行研究を①発達観点、チェックリストについての研究②「気になる」子どもの周りの環境についての研究③保育者のかかわりについての研究④保護者・保育者への支援についての研究⑤支援体制の在り方、他機関との連携についての研究があるとした。

「気になる子」へ対応で悩んでいる保育者は多い。悩むだけではなく、「気になる子」に対して、どのような意識を持っているのかを探っていくことが自分を客観的に見つめなおす為にも必要なのではないだろうか。それが、「気になる子」への保育へつながっていくのではないかと考える。

## (2) 本研究の目的

本研究の目的は、保育者の「気になる子」に対する気になる行動に対して、保育者がどのような意識を持っており、それがどんな影響を与えているのかを保育者語りから、明らかにすることである。

## 2. 方 法

### 1) 対 象

筆者を含めた保育経験者3名で、「気になる子」のエピソード記述をもとに、フォーカス・グループ・インタビューを行った。調査対象者の概要は、次の通りである（表1）。

表1 対象者の概要

	性別	保育経験	備考
A	女性	6年	元私立幼稚園勤務
B	女性	14年	元私立幼稚園勤務
C	女性	15年	元私立幼稚園及び 元私立保育園勤務

### 2) 分析手法

約1時間のフォーカス・グループ・インタビューでの会話を、ICレコーダーによって録音した後に、文字起こしを行った（総数96セグメント）。その中から、保育者が「気になる子」について語っている27セグメントを抜き出し、これを分析対象とした。

本研究では、大谷（2007、2011）により提案されたSCAT（Steps for Coding and Theorization）を用いて質的データ分析を行った。分析手続きは、マトリクスの中に、セグメント化したデータを記述し、それぞれに、（1）データの中の着目すべき語句（2）それを言いかえるためのデータ外の語句（3）それを説明するための語句（4）そこから浮き上がるテーマ・

構成概念の順に、コードを考えて付していく4ステップのコーディングと(4)のテーマ・構想概念を紡いでストーリーラインを記述し、そこから理論を記述する手続きとしている。

この手法は、比較的小規模の質的データの分析にも有効であるということから、本研究に採用した。

### 3. 結果と考察

本研究において、SCATを用いた分析から得られたストーリーライン及び理論記述は以下の通りである。

#### 〈ストーリーライン〉

保育者は、子どもの「気になる行動」・「自己表現」・「感情表現」・「集団行動」・「依存的交友関係」・「気持ちの切りかえ」などに対して・「年齢に応じた成長」・「子どもの背景」などに当てはめて考えることができない時に「保育者の予測乖離」が行われ、「共感的保育意識」が欠乏する状態になり、「納得のプロセス」への移行が難しい。

また、「場面限定的技能発揮」・「賞賛依存的技能発揮」・「好悪選択的技能発揮」・「活動期待的技能発揮」の場面においても「保育者の予測乖離」が行われ、「共感的保育意識」が欠乏の状態になると「納得のプロセス」への移行が難しい。

周囲から見れば何とでもないようなことが、保育者にとって「気になる」のは、保育者は子どもたちにとって「身近な存在」であり、「子どもへの期待」・「子どもへの願い」という思いを持っているため「保育者の視点や意識」が芽生えている。また、毎日関わり関係性も深いことが保育者と他者とは感じ方に「差」があり、「他者視点」とは異なった「関わりの濃さによる感じ方の差」が生まれる。

#### 1) 関わりの濃さによる感じ方の差

岡村(2011)は、保育者からみた「気になる子ども」の捉え方に関する調査を実施し、保育者があげる「気になる子ども」の数は、クラス責任者とそうでない保育者との担任保育者間、クラス担任と園長、園長と主任、フリーの保育者と担任との間で存在していた。保育者それぞれに、「気になる子ども」が存在し、明らかに見方に違いがあることが考えられ、それぞれの見方の違いが「気になる子」の数の大きな開きを生じさせているのではないかと考えられると述べている。

本研究においても、「気になる子」に対しての認識は、語っている保育者の間で異なっていた。A君と担任が二人でいるのをみると怒りだすBちゃんの「気になる行動」に対しては、客観的に見ることができる立場の者には、「担任に対する好きな子を取られるという焼きもちが引き起こす行動」と指摘された。だが担任保育士にとっては、繰り返される「気になる行動」に対して、焼きもちだけでは納得できず、分からないながらも何か保育者自身にも原因があるのではないか

という思いを話している。担任の保育者は子どもたちと毎日関わり、関係性も深く、一番身近な存在である。そのため、期待や願いという保育者の意識や思いが強くなり、その意識や思いの差が、保育者と他者（客観的に見れる者）での感じ方に差を引き起こすのである。

## 2) 共感的保育意識

保育者は、子どもが「逆上がりができるようになって嬉しかった。」と言われたら、どう感じるのだろうか。逆上がりができるようになったことや嬉しかったという思いを受容し、出来ることへの喜びや保育者自身も逆上がりできた時の気持ちを思い出すことで、子どもの思いを共感できるはずである。だが毎日の保育の中では、子どもの思いを受容は出来ても保育者自身にとって共感にくい状況が引き起こされることがある。その保育者の共感にくい思いと「気になる子」との関係性が明らかとなった。

「気になる行動」には①自己表現が分かりにくい②感情表現が激しい③集団行動についていけない④交友関係が特定の人に依存している⑤気持ちの切り替えがうまくできないなど、発達障害のある子どもたちにもみられるような行動があげられる。それを子どもの年齢に応じた成長や、子どものおかれている背景など、ある程度保育者が予測したことに当てはめ納得できる部分があるならば、多少の戸惑いがあるとしても、試行錯誤しながら保育者は対応を考えていこう。たとえば、幼稚園の5月の連休明けの3歳児クラスでは、多くの子が入園時よりも園生活のリズムをつかみだしている。その中で、その時期から登園を嫌がり泣き出す子がいる場合、「なぜ泣き出したのか」と、保育者は「泣いていることが気になる」だろう。園生活のリズムをつかみだしたことで、登園時の母子分離の状況が予測でき、不安感が増し、泣くことで伝えられない思いをアピールしているなどと保育者が予測し、「子どもが泣いている」ことに共感し、「〇〇だから気になる行動をする。」と納得することができれば、保育者の気持ちは次へのステップに移行する。この共感から納得への移行を「納得のプロセス」とする。保育者は、予測したことにもとづいて子どもたちに働きかけていくことができる。だが、施行錯誤しながら対応しているにもかかわらず、この泣いている状態が継続されるようであれば保育者の予測乖離という状態が引き起こされる。予測を超えた分らないことに対して、保育者自身の共感できない思いが積み重なった時に、納得へのプロセスへの移行が難しく、必要以上に意識化され、その子のことが気になってしまうのである。

技能発揮においても同じようなことが言える。本研究で技能発揮とは、子どもたちが何かをできることを指している。保育の場面で技能発揮が見られる際、そこにある子どもの動機として、次の4つがあると考えられる。それは、①場面限定的技能発揮 ②賞賛依存的技能発揮 ③好悪選択的技能発揮 ④活動期待的技能発揮 の大きく4つである。以下、詳細に見ていく。

① 場面限定的技能発揮

例えば、朝の身支度では、鞆や持ち物の整理、連絡ノートのシール貼りなどのある程度変化のない決まった活動が行われる。このように場面が限定されて活動が決まっている活動に対して発揮できる技能のことを示している。

② 賞賛依存的技能発揮

当番活動では、保育者の手伝いをして何かを配ったり、給食の前には、机を拭くことがある。この活動は、保育者からも周囲からも感謝され喜ばれている。いつもは援助が必要であり、なかなか活動に取り組めない子であっても、自分が当番になると、はりきってすんなり取り組めることがある。このように、褒められたい・喜ばれたいという子どもの意識が働くことで発揮される技能である。

③ 好悪選択的技能発揮

子どもたちには、好きな活動と嫌いな活動がある。その子自身の好き嫌いによって、活動の出来や参加状況が変化してしまうのである。好きな活動だから行いたい。嫌いな活動だから気か乗らず行いたくないというように、子どもたち自身が選択した結果によって左右される技能発揮である。

④ 活動期待的技能発揮

プール活動で、制服からスモックへ着替えるまでに時間がかかる子が、水着へ着替えることは早かったが、プールが終わって水着から制服に着替える時は、着替えるまでに時間がかかった。着替えをすれば、プールに入れるという次の活動へ期待する思いがあるからこそいつもはなかなかできないことがスムーズにできた。このように、次への活動が予測でき、期待や意欲的な心情になった時に発揮される技能である。

保育者は出来ないことに対しても出来ていく過程や場面を大切に働きかけているので、子どもの技能発揮は、「できる」「できない」ということだけに意味があるわけではない。集団遊びの「しっぽ取りゲーム」の場面において、「やりたくない。」と子どもが言い出したら、鬼ごっこが好きではなかったり、走ることが好きではなかったり、しっぽを取られることが嫌なのかもしれない。また、ルールのある遊びの楽しさが分からなく、集団遊びが苦手かもしれないなどと、やりたくない理由をいくつも考え、それをもとに配慮しながら様子を見て誘っていただろう。「やりたくない」という思いに対して、「そういうこともあるよね。」というように考えることができれば共感的保育意識は生まれる。「しっぽ取りゲーム」に参加しているある子が毎回しっぽを取られる時に泣いていたら、保育者はどう感じるだろうか。悔しい気持ちがある・ルールが理解できず取られたと思う（おもちゃを取られたのと同じ感覚）・取られて悲しいという感情であれば、保育者も納得のプロセスへと移行することができるので共感的保育意識が生まれるかもしれない

が、毎回であれば保育者の予測乖離の状況が生まれる。なぜ泣く状況が変化しないのかという思いや、なぜこの子だけルールが理解できないのか、なぜこの子が理解しようとししないのかという思いや、この年齢なら気持ちの切り替えはできるのではないかというような保育者の期待・願いからの思いが生まれていき、共感的保育意識が欠乏していくのではないだろうか。これが納得のプロセスへの移行を妨げ、「気になる子」に対しての気になる状態を作り出していくと思われる。

### 3) 納得のプロセスへの移行

例えば、ある日、給食の時間に焼きそばを食べているとする。子どもが麺と野菜を一緒ではなく、麺を中心に食べている為、お皿の中に野菜が残риだした状態の時に保育者はどのように感じるだろうか。「なぜ、麺だけを食べるのか？」という保育者の疑問に対して、野菜が好きではないことや、野菜が細かく切ってあるため食べにくかった、箸がうまく使えないなど、保育者が予測できれば「そういうこともあるよね。」と共感的保育意識が働いて気になることにに対して、保育者は納得することができる。このような場合、納得のプロセスへの移行ができたといえ、移行できたということで、その子の行為は「気になる」ことから外される。だが毎回、麺だけを食べる状態が繰り返されるとどうだろうか。野菜を食べられるよう働きかけること、フォークを使い、様子を見ながら箸へ移行することや、手を動かせるような遊びを取り入れていくというように、様々な配慮をするだろう。それでも何の変化も見られないときは、また新たな予測を保育者は立てるだろう。その試行錯誤の繰り返しの中で、1つでも「そういうことはあるよね。」と共感的保育意識が働けば、納得のプロセスへの移行ができるのだが、そうではない場合に、それは、気になることの要素となる。保育者は、「気になる子」の気になることにに対して、このプロセスを行っているといえるだろう。

もやもやとした共感できない思いを募らせ、保育に対して行き詰まってしまう思いを抱いていても、保育者の負担感が増すばかりである。保育の方向性が見いだせないことや保育方法がわからないことで諦めてしまうのではなく、「気になる子」に対して、もがきながらも保育者が様々な視点や取り組みを探ることが「気になる子」に応じた対応を見つけることにつながっていくのである。また、保育者が「気になる子」に対して気にならなくなるから配慮をしなくなるわけではない。「気になる」枠組みから外されることによって保育者の負担感が軽減されることで、客観的に自分を見つめ直すことができ、今まで目を向けていなかったところにも意識が働くようになり、子どもに寄り添った保育をすることができるのではないだろうか。

「気になる子」に対して納得のプロセスへの移行過程を経験することは、保育者にとっては負担感を感じるかもしれないが、とても大切なことである。

#### 4. ま と め

保育者の「気になる子」に対して何が気になっているのかを、保育者の語りから明らかにすることを目的とし、エピソード記述をもとにフォーカス・グループ・インタビューを行い、SCATで分析をした。

担任の保育者は子どもたちと毎日関わり、関係性も深く、一番身近な存在である。そのため、期待や願いという保育者の意識や思いが強くなり、その意識や思いの差が、保育者と他者（客観的に見れる者）での感じ方に差を引き起こすのである。保育者と子どもとの関係性の深さによって「気になる子」に対する感じ方の差があることや、保育者が「気になる子」の気になっていることに対して、うまく対応できず戸惑いがあったり、保育者の予測乖離される状況が継続されると、共感的保育意識が生まれにくいことがある。その中で、試行錯誤しながら「納得のプロセス」へと向かっていく過程があり、この過程は、保育者にとって辛い状況であるかもしれないが、これこそが、「気になる子」に寄り添う保育をする上で必要なことであることが明らかになった。

保育者間に見方の違いがあるということが、「気になる子」に対してどのような影響を与えているのだろうか。「気になる子」は、担任保育者だけが保育をするわけではないので、今後は、関係性の深さによる感じ方の差による保育者の「気になる子」に対しての意識の違いや、共感的保育者意識が働かない状況から、どのように納得のプロセスの過程を迎えていくのかを探ることで各保育者の役割を明らかにしていくことを今後の課題としたい。

#### 5. 引 用 文 献

- 久保山 茂樹・斎藤 由美子・西牧 謙吾・滝川 国芳・當島 茂喜（2009）「気になる子ども」「気になる保護者」についての保育者の意識と対応に関する調査 ―幼稚園・保育園への機関支援で踏まえるべき視点の提言― 国立特別支援教育総合研究所 研究紀要36 55－75
- 本莊 明子（2012）「気になる」子どもをめぐる研究動向 愛知教育大学 幼児教育研究 第16号 67－75
- 大谷 尚（2011）SCAT: Step for coding and Theorization―明確の手続きで着手しやすく小規模データに適応可能な質的データ分析方法― 感性工学 10（3）155－160
- 大谷 尚（2007）4ステップコーディングによる質的データ分析手法のSCATの提案―着手しやすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き― 名古屋大学大学院教育発達科学 研究科紀要（教育科学） 54（2）27－44
- 郷間 英世・池田 知美・圓尾 奈津美・郷間 安美子・宮地 知美（2008）幼稚園・保育園における「気になる子」に対する保育上の困難さについての調査研究 京都大学紀要 No. 113 81－89



岡村 裕子（2011）保育者からみた「気になる子ども」についての調査研究 滋賀大学大学院  
教育学研究科論文集 第14号 37-48

# 資料1 SCAT分析に基づく4ステップコーディング表

大谷 尚（2007）4ステップコーディングによる質的データ分析手法のSCATの提案―着手し  
やすく小規模データにも適用可能な理論化の手続き― 名古屋大学大学院教育発達科学  
研究科紀要（教育科学） 54（2）27-44

No.	発 話 内 容	<1>テキスト中の 注目すべき語句	<2>テキスト中の 語句の言い換え	<3>左を説明するよ うなテキスト外の概念	<4> テーマ・構成概念
1	気性が荒い。起伏がすごく 激しくて。ワーッと became かと思ったら、おさまって という感じ。	気性が荒い/起伏 がすごく激しくて /ワーッと became かと思ったら、お さまって	激しい感情の起伏 /自己表現	保育者の意識「共 感できない」/保 育者の予測	共感的保育意識/ 保育者の予測乖離 「感情表現」
2	Tの「うん。」ってしたがっ てくれる所。T君の世話を 焼きたくて仕方がない。	したがってくれる 所/世話を焼きた くて仕方がない	世話焼き/特定の 子	保育者の期待「人 との関わりによる 成長」	子どもの期待/子 どもへの願い
3	私の子……みたいな。	私の子	好きな子/依存心	保育者の期待「交 友」	保育者の予測乖離 「依存的交友関係」
4	それが、他の子ども同士が やっているなら何もやらな いのが、保育者にはすごく 向ってきて怒って。ひっく り返って。	保育者にはすごく 向ってきて/怒っ て/ひっくり返っ て	激しい感情表現/ 行動から伝えたい 思い	保育者の期待「自 己表現」/「見え ない思い」	保育者の予測乖離 「感情表現」
5	T君自身は、Nちゃんがいた おかげで人の輪にもどん どん入って行けるようにな ったから、この子がきっか けで良かったのだけだ。	Nちゃんがいたお かげで人の輪にも どんどん入って行 けるようになった /この子がきっか け/良かった	きっかけ/望まし い関係/他者との 関係	共感的保育者意識	共感的保育意識/ 納得のプロセス
6	そのおかげで自分の気持ち を言えるようになったから。 私にとってNちゃんは気にな る子であったけど、T君 にとっては、すごくいい、 とっても助かる子。	おかげで自分の気 持ちを言えるよう になった/私にと ってNちゃんは気 になる子/T君に っては、すごくいい、 とっても助かる子	自己表現/保育者 にとっての気にな る子/他の子から 見たその子	異なる視点	保育者の視点や意 識 /差
7	どうして、そこまで表現を するのかっていうことが、 分かりかねた。	どうして、そこま で表現をするのか	大きな表現	気になる行動	気になる行動
8	思っているのか。分かるの か。子ども同士の中で。T 君が先生のことが好きなの だあっていう。だから、 すごく焼きもちを焼いちゃ うんじゃないかなっていう。	思っている/分か る/子ども同士 の中/T君が先生 のことが好き/焼 きもちを焼いちゃ う	他者の考える子ど もの思い	視点「他者」	他者視点
9	私の言葉掛けとか何かが悪 いのかなあという感じで。 気になっていました。	私の言葉掛けとか 何かが悪いのかな あ/気になってい ました	言葉掛け/保育者 の戸惑い/振り返 り	視点「保育者の振 り返り」	関わり方の濃さによ る感じ方の差



No.	発 話 内 容	<1>テキスト中の 注目すべき語句	<2>テキスト中の 語句の言い換え	<3>左を説明するよ うなテキスト外概念	<4> テーマ・構成概念
10	そういうのもあるので、あえて、こう言うとか、この子はどういう反応をするのかなとか、立ち直っていくのかな。そういうのを見たかったのもあるから。意地悪だったかなというのもあるので。	あえて、こう言うとか、この子はどうかとか、立ち直っていくのか/そういうのを見たかった	保育者の予測/観察	保育者の期待/「気持ちの切りかえ」	保育者の予測乖離/「気持ちの切りかえ」
11	気になる子は、自分で気にして気になる子にしちゃってるのかな。今、振り返ってみると。	気になる子は、自分で気にして気になる子にちゃって/振り返ってみる	保育者の気になる子/保育者の気にしちゃってる子	視点「意識」/「無意識」	関わり方の濃さによる感じ方の差
12	私にとっては、毎回それをやられる。またか。またか。またか。またか。	私にとっては、毎回それをやられる	問題行動の継続/毎回	視点「保育者」/保育者の意識「共感できない」	共感的保育意識
13	気になる部分は、私が作ってる。他の人にとっては、なんともない事なのかな。	気になる部分は、私が作ってる/他の人にとっては、なんともない事	保育者の意識/気になる/他者の意識	視点「保育者」/「意識」「無意識」	保育者の視点や意識
14	変わってたけど。何か気に入らないことがあると、泣いて崩れ落ちるっていうのはあってすごく女優な子なので。	何か気に入らないことがあると、泣いて崩れ落ちる/女優な子	自己表現/行動から伝えたいこと	保育者の予測/「感情」/「自己表現」	保育者の予測乖離/「感情」「自己表現」
15	1年間、身支度がなかなか出来なかった。	身支度がなかなか出来なかった	出来ないこと	保育者の期待/「集団活動への参加」	保育者の予測乖離/「集団行動」
16	鞆を並べることが、一年間出来なくて。声を掛けられて、一緒につかないと出来ない。	一年間出来なく/声を掛けられて/一緒につかないと出来ない	出来ないこと	保育者の期待/「年齢に応じた成長」	保育者の予測乖離/「年齢に応じた成長」
17	でも、製作とか、そういうのは出来る。あることだけできる。	あることだけできる	出来ること	自己技能の発揮「場面限定」	好悪選択的技能発揮
18	豹変して叩くとか。分かりにくい。	豹変して叩く/分かりにくい	問題行動/感情の波/行動から伝えたいこと	保育者の期待/「自己表現の発揮」	保育者の予測乖離/「自己表現」
19	普通であれば、1年かけていろんなことが出来ていくのに、製作とかは出来ない。絶対水筒は忘れて並べないとか。他のことは、気がついて手伝えるのに。本当に自分のことは出来ない。他の面でも気になるのは気になる。	普通/1年かけていろんなことが出来ていく/他のことは、気がついて手伝える/自分のことは出来ない	出来ること/出来ないこと	自己技能の発揮「場面限定」	場面限定的技能発揮
20	いますよね。やって当り前のことはしない。誉められることはする。	やって当り前のことはしない/誉められることはする	やらないこと/誉められること	自己技能の発揮「場面限定」	賞賛依存的技能発揮
21	朝の用意は出来るんです。	朝の用意/出来る	出来ること	自己技能の発揮「場面限定」	好悪選択的技能発揮

保育者の「気になる子」のとらえ方に関する研究

No.	発 話 内 容	< 1 >テキスト中の 注目すべき語句	< 2 >テキスト中の 語句の言い換え	< 3 >左を説明するよ うなテキスト外概念	< 4 > テーマ・構成概念
22	次のことがあるから？	次のこと	次の活動	自己技能の発揮 「場面限定」	活動期待的技能発 揮
23	帰りの支度が好きじゃない とか。	帰りの支度/好き じゃない	出来ないこと/嫌 いなこと	自己技能の発揮 「場面限定」	好悪選択的技能発 揮
24	そういう子もいますよね。	そういう子	予測出来ること	保育者の予測/ 「年齢に応じた成 長」	納得のプロセス
25	1年で、何も声を掛けられ ないで出来たのが、片手ぐ らいしか。	1年/何も声を掛 けられない	出来ること	保育者の期待/ 「年齢に応じた成 長」	年齢に応じた成長
26	甘えて・・・・・・ってこ とも考えにくい。疲れ？	甘え/考えにくい /疲れ	体調/予測	保育者の予測/ 「感情」/「体調」 /保育者の意識 「共感できない」	保育者の予測乖離 /「子どもの背景」
27	毎日のことなら、違います よね。	毎日のことなら違 う	毎日/保育者の意 識	身近な存在	身近な存在

## 付 記

本研究は、名古屋市立大学大学院准教授上田敏丈を中心としたオートエスノグラフィー研究会での話し合いをもとに分析した。本研究の執筆は、名古屋市立大学大学院 博士前期課程 松葉百香と山本聡子が行い、主に松葉が執筆したものである。

## 謝 辞

この場を借りて、オートエスノグラフィー研究会のメンバーである二橋香代子さんにお礼申し上げます。